

高 層 評 定 委 員 会

申 請 図 書 作 成 要 領

1. 資料の提出部数一覧

1) 新規案件、計画変更案件

提出時期	提出期限	提出書類	部数	備考
性能評価申請時 (申込時)	委員会の 1 週間前 16 時	性能評価申請書	1	・申請書押印版は1週間前まで ・建築物の概要について、様式は自由
		建築物の概要	1	
		別添、別表	1	
第 1 回委員会	委員会の前日 16 時	提出図書(審査用)	10 電子データ	・構造概要等が記載された審査用技術図書 ・EXP.J を介して一の建築物すべてが対象 ・構造図はA1 (A2) サイズ及びA3サイズ。 ・意匠一般図はA3サイズ ・資料は一冊にまとめる ・出力資料 10 部は、委員会当日の提出可
部会	部会当日	性能評価経過報告書	担当委員数+1	・資料は一冊にまとめる
		追加検討一覧表		
		追加検討書		
部会後	部会後、速やかに	追加検討書	1	・部会終了後に確認事項がある場合のみ。
第 2 回委員会	委員会の前日 16 時	性能評価申請書(写)	10 電子データ	・資料は一冊にまとめる ・出力資料 10 部は、委員会当日の提出可 (報告委員の判断による。)
		別添、別表		
		追加検討一覧表、追加検討書		
		追加資料一覧表、追加資料		
		正誤表等		
		性能評価経過報告書		
第 2 回委員会後		性能評価書発行用提出図書	1	・別途、要領を定める ・大臣認定申請図書と同一の技術図書で決済用に使用
大臣認定申請時		大臣認定申請図書(控え)	1	・別途、要領を定める
大臣認定終了後		最終版保管図書(黒表紙製本)	2 以上	・確認印を捺し、1 部は控えとして当社が保管
		最終保管図書の電子データ	1	・メディア及びデータ形式は特に定めていない

計画変更案件について

- ※1 上記表は時刻歴応答解析を再実施する場合を示します。提出資料の構成は別途ご相談下さい。
- ※2 時刻歴応答解析を実施しない変更の場合、資料の提出期限や部数は上表により、提出資料の構成は1)の軽微な変更に準じます。

2)軽微な変更

提出時期	提出期限	提出書類	部数	備考
受付時	受付日当日 (随時)	性能評価申請書 (写)	4	・申請書押印版はなるべく速やかにご提出く ださい ・資料は一冊にまとめる ・別添は従前の別添より構造図を除いた資 料とする
		別添		
		設計変更説明書		
		設計変更検討書		
		変更前及び変更後 構造図		
担当委員審査終了後		性能評価書発行用 技術図書	1	・別途、要領を定める ・大臣認定申請図書と同一の技術図書で決 済用に使用 ・性能評価報告書(第2回委員会)を添付
大臣認定申請時		大臣認定申請図書 (控え)	1	・別途、要領を定める
大臣認定終了後		最終版保管図書 (製本)	2以上	・確認印を捺し、1部は控えとして当社が保 管
		最終保管図書の電 子データ	1	・メディア及びデータ形式は特に定めていな い

2.資料の体裁

1) 申請時の性能評価用提出図書、部会資料

- ファイル綴じなど資料が逸散しない状態としてください。
- 1冊にまとめるようにしてください。
- 表紙記載事項
件名、申請者(社)名、設計者(社)名、申請年月日、委員会名(高層評定委員会)

2) 最終版図書

- A4版とし、図面などA3版のものはA4に折り込んでください。
- 片面、両面焼き、いずれでも構いません。
- 最終版の装丁はA4ファイル綴じとし、数部に分かれる場合は、1/3、2/3、3/3 等と番号を付してください。
- 保管上の問題から、青焼き及びビス止め製本は不可とします。
- 最終版図書の内容
別途、要領を定めています。

高層評定委員会 性能評価番号 件 名 平成〇年〇月〇日 申請者 □□会社 設計者 □□設計事務所株式会社	性能評価番号 高層評定委員会 件名 性能評価年月日 申請者名 設計者名
---------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------

*1 性能評価番号 申請書もしくは引受け承諾書に記載しています。

*2 性能評価年月日 第2会委員会の承諾を受けた日とします。

3. 提出図書

提出図書は下記を参考にしてください。その他必要なものについても申請者の判断で資料をまとめてください。

1) 記載事項(新規案件)

資料名	記載事項
申請書	・性能評価申請書のコピー
パース 配置図	・パース ・配置図(敷地境界等がわかる図、一の建築物(付属棟がある場合)の構成がわかる図)
別添	・建築物概要及び構造概要を記した別添の表 ・構造設計図 主要な伏図及び軸組図、主要構造図、継手・仕口部の詳細図、断面リスト、その他特殊構造部分の構造図
別表	・業務示方書に対する検討表 ・付表1:構造検討概要書 ・付表2:復元力特性概要書 ・付表3:設備・維持管理概要書(該当する場合)
建築概要	・一般事項、建物概要、設備概要 ・パース、案内図、配置図、主要建築設計図、EXP. J
地盤調査書	・地盤概要、調査の概要、土質柱状図及び調査位置図、地層断面想定図、各種実施調査関係資料(地下水位、地盤の工学的性質)
構造計画 及び 構造設計概要	・構造計画書 主要構造部の概要、目標とする構造性能、耐積雪・耐風・耐震設計方針、上部構造の部材設計方針、基礎の設計方針 品質管理計画 ・構造計算書 使用材料、設計用荷重、応力解析、主要部材の断面設計(方針M計算書抜粋) ・基礎構造設計 設計方針と地業形式・工法、許容支持力、液状化の検討、即時・圧密・不同沈下の検討、土圧の検討、その他 ・特定天井、外装材等の検討 ・振動解析 解析モデル、固有値解析、設計用地震動の設定方法、地震応答解析 ・中低層棟部及び内蔵立体駐車場の構造設計概要・構造設計図 用途上 EXP. J 等を介して一の建築物となる低層棟部分及び内蔵立体駐車場が設置されている場合の構造設計概要と構造設計図 ・あらかじめの検討(必要な場合のみ)
その他	・実験報告書(実験に基づいて構造設計を行った場合) ・施工計画書(特別な場合のみ) ・認定工法の認定書の写し等
追加資料	・追加検討一覧表、追加検討資料 ・追加資料一覧表、追加資料 ・正誤表
評価報告書 経過報告書	・第1回委員会 ・部会・第2回委員会(事務局より送付)

2) 資料全般の記述方針について

提出資料(追加検討資料を含む)は、申請者の口頭説明がなくても内容を十分理解できるようにまとめてください。

資料作成にあたっては下記の項目に注意してください。

- ・設計や検討にあたっては、設計方針や検討方針を具体的に記述するとともに、検討結果や結論及びそれに対する申請者の判断を明確にする。
- ・採用した式や準拠した規定・規準等は、その出典を記載する。
- ・見にくいものは着色するなど手を加えて見やすいものにし、応力図など図表は凡例や説明文(タイトル)を記載する。

る。

- ・計算書のうち、検討に際して必要かつ重要なものについては記載する。

3) 別添記述注意事項

別添とは、建築概要および構造設計図についての資料です。

① 建築物概要及び構造概要(別添の表)

- ・土質及びN値は工学的基盤まで記載。工学的基盤面下のせん断波速度 V_s 、N値、土質も記載。
- ・液状化の有無。有の場合は液状化が発生する地震動のレベル及び対策も記述。
- ・使用材料のうち大臣認定を受けているものは認定番号を明記。
- ・柱梁接合部には、鉄筋の継手及び定着工法を明記。その工法が技術証明など取得している場合は、証明番号や評定番号を明記。
- ・その他任意の技術評価を受けている技術・工法については「構造の特色」を概要に記述。

② 構造設計図

- ・別添の表に続いて、構造図を添付。ページは別添としての通し番号とする。

4) 別表記述要領

別表は平成12年建設省告示第1461号に対する検討結果を記述するものです。「時刻歴応答解析建築物(工作物)性能評価業務方法書」に準じて作成願います。

① 別表

- ・検討結果には応答値とクライテリアを具体的数値をもって記述する。

② 付表 1. 構造検討概要書

- ・構造設計概要、動的解析概要の説明。速度、加速度は整数値で表記。

③ 付表 2. 復元力特性概要書

- ・振動系モデルの説明。建物軸組質点系が対比できるように図を並記すること。
(フロア位置と質点の関係。ペントハウス、地下階の扱い)

④ 付表 3. 設備・維持管理概要書

- ・設備配管について説明。維持管理について、体制、点検時期、検査項目等の説明。

⑤ 技術資料

- ・「建築概要」「地盤調査書」「構造計画及び構造設計概要」「その他」「追加資料」「性能評価経過報告書」を添付する。
- ・技術資料は章ごとのページのままでも結構です。

5) 別表記述注意事項

第1号 長期荷重に対する安全性

- ・長期荷重に対する許容応力度設計の結果等。

第2号 積雪荷重に対する安全性

- ・当該敷地の積雪荷重、1.4倍の積雪荷重、積雪荷重の低減措置等。積雪荷重に対する許容応力度設計の結果等。

第3号 風圧力に対する安全性

- ・当該敷地の基準風速、地表面の粗度区分を明記。
- ・風圧力を地震力と比較する場合は、地震力のレベルを記述。

- ・免震材料を採用する場合は、レベル1の風圧力に対して免震材料の降伏の有無について確認。レベル2の風圧力に対して進行性の変形の有無について確認。
- ・高さ100m以上かつアスペクト比が3以上の建物は、風直交方向、ねじれ方向の振動性状。
- ・制振装置を使用する場合は、その耐風クライテリアに対する確認事項を記述。

第4号 地震力に対する安全性

(i) 設計用地震動の検討

- ・告示波3波以上:短周期・長周期及びランダム位相。
- ・必要に応じて、断層を適切に考慮したサイト波(レベル2のみで可)。サイト波については作成方法についても記述する。
- ・観測波3波以上。

(ii) レベル1(稀に発生する地震動に対する検討)

- ・最大層間変形角の応答値と目標値の具体的数値を記述する。
- ・応答結果
層間変形角等の代表的な最大応答値を記述する。

(iii) レベル2(極めて稀に発生する地震動に対する検討)

- ・最大層間変形角、層の最大塑性率、部材の最大塑性率、柱軸力比、免震材料の面圧などの応答値、目標値の具体的数値を記述。
- ・応答結果
層間変形角等の代表的な最大応答値を記述。

(iv) 上下方向の地震動に対する検討

- ・建物の形態・規模等を考慮。
- ・長大スパン梁の地震時振動性状の検討、梁変形及び応力度の検討。
- ・上下方向及び水平方向の応答を適切に組み合わせて検討。
- ・柱軸力比が目標値内であることを確認。

(v) 直交する方向の水平動の影響に対する検討

- ・コーナー等の柱軸力比、免震材料の面圧などの検討を行い目標値以内であることを確認。

(vi) 地震動の位相差の影響

- ・建物の平面形状の大きさにより位相差の影響を検討。

(vii) 地震力に対する安全性

- ・ $P-\delta$ 効果の検討。
- ・免震材料採用の場合は免震層での応力による検討必要。

(viii) 時刻歴応答解析の適用除外

- ・一の建築物となる中低層部等の設計について記述。

第5号 荷重の組み合わせ

- ・荷重の組み合わせを考慮して設計していることを記述。

第6号 長期荷重に対する使用性

- ・居住性に対する検討。
- ・荷重及び外力による変形又は振動により使用上の支障が生じないことを確認。
- ・検討値が目標値(制限値)以内であることを確認。

第7号 特定天井、外装材等の安全性

- ・外装材の地震動、層間変位、風圧力に対して耐力及び変形追従性の確認。

- ・外装材検討の際の設計風速・再現期間について記述。
- ・稀に発生する地震動に対し、特定天井の構成部材、接合部が安全であることの確認。
- ・特定天井検討の際、天井面構成部材と壁等のクリアランス値について記述。

第 8 号 土砂災害特別警戒区域

第 9 号 特殊な材料及び特殊な装置

- ・特殊な材料及び特殊な装置はその他の特記事項に記載。
- ・制振装置等を採用する場合は本欄に明記し、装置の諸元及び検討事項の要点を記述。
- ・高強度コンクリート、免震材料、その他大臣認定の材料、または評定(証明)工法等を使用する場合は明記。

その他の特記事項

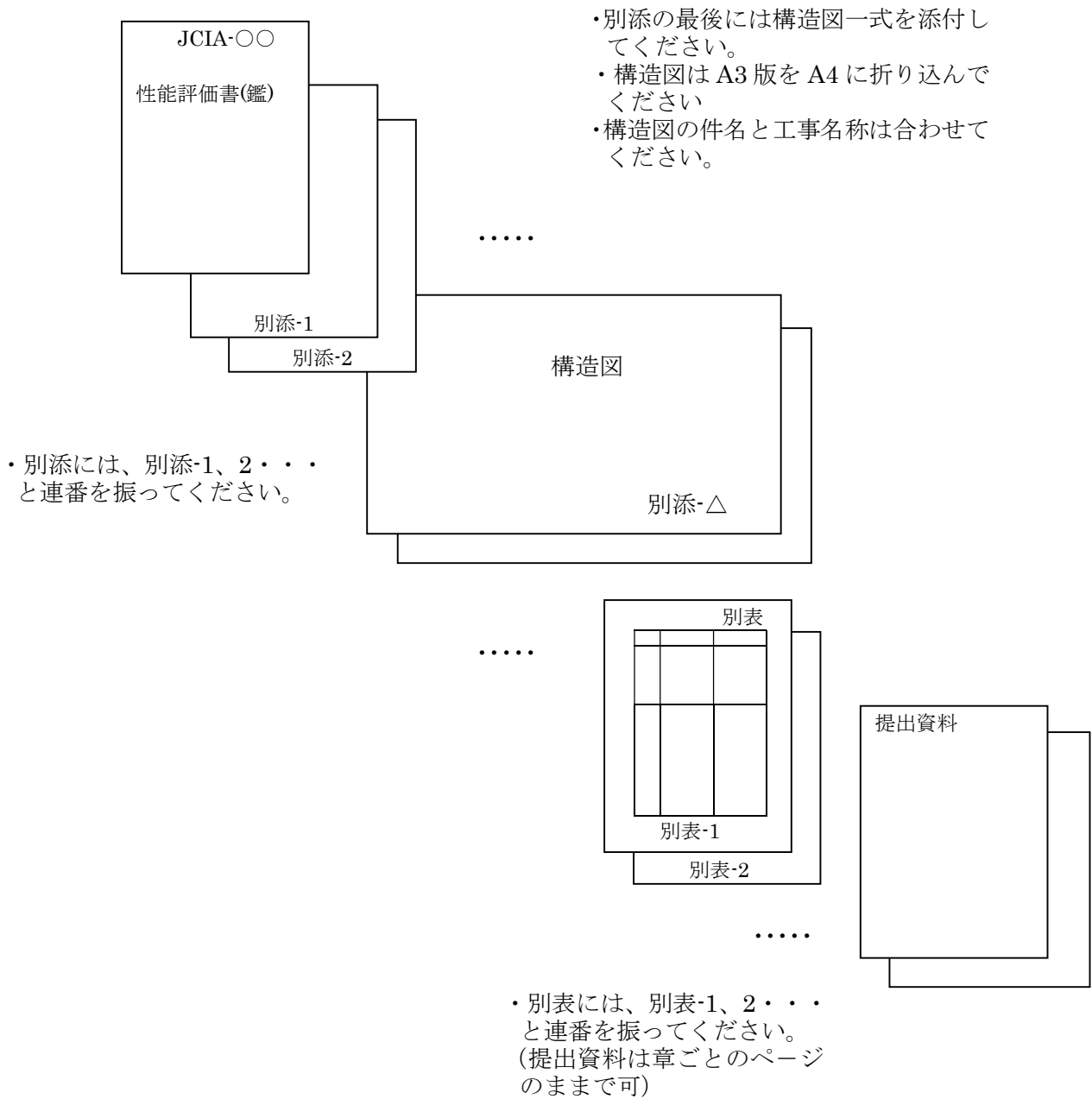
- ・エキスパンション・ジョイントに対する記述。
- ・あらかじめ検討を行った事項について記述。
- ・追加検討を行った事項について記述。

4. 性能評估提出圖書

1) 提出図書構成

性能評価提出図書は、性能評価書、別添、別表で構成され、大臣認定申請図書とほぼ同じです。

- ・性能評価書「鑑(カガミ)」は、審査終了後に弊社が作成します。
- ・別添、別表は申請者で作成をお願いします。
- ・別添には構造図一式をつけてください。
- ・鑑の正本は、大臣認定申請時に国交省に提出します。それ以外の用途に使う場合は、正本と同時にお渡しする「写し」をコピーして使用してください。



5. 性能評価経過報告書(議事録)作成要領

1)日時

年月日:例)平成26年12月22日

開始時間ー終了時間:例)13:30ー17:00

2)場所

具体的に明示:例)日本建築検査協会 8階会議室

3)件名

性能評価申請書と同じ名称とする。例)〇〇〇ビル、△△△積層ゴム支承など

4)委員会名

正しく記述:例)本委員会の場合「第1回高層評定委員会」

部会の場合 「第2回部会」

5)出席者

出席者は全員記述

本委員会:例)「委員長以下〇〇名 別紙参照」とし、座席表を添付する。

申請者、事務局・・・全員の所属・名前を記述

6)指摘及び検討事項

- ・指摘は具体的にかつ適確に記述してください。
- ・ですます調で丁寧に記述してください。
- ・指摘には連番をつけてください。
- ・大項目でまとめる場合は表題を明記し、具体的に番号を付けてください。

7)回答及び処置

- ・丁寧に回答し、委員会・部会後の対応も含めて、処置した方法も簡単に記述してください。
- ・番号は不要です。
- ・行位置を対応する質疑と揃えてください。

8)備考

- ・追加検討資料:委員会及び部会で指摘のあった事項について検討した場合の資料
:例)追加検討資料-1
- ・追加資料:委員会及び部会で取り扱ったもののうち、参考文献やパンフレットなどの参考資料
:例)追加資料-2
- ・正誤表:提出した構造概要書の文言の誤りの修正、わかり難い表現などの訂正、表・図面の修正等の表。修正の経過が分かるよう、訂正前、訂正後を対比させる表形式としてください。図面に関するものは、性能に大きく関連する場合は添付してください。

9)その他

文章は丁寧に説明してください。質問のテーマ・主旨がわかるように記述してください。

各項目の最後の文節のあとを1行空けて見やすくしてください。

最後は「以上」で締めくくるようにしてください。

指摘事項回答書

委員会・部会 第 回	日 時 13:30～14:30	平成 年 月 日	場 所 8 階会議室	日本建築検査協会	出席者	委 員 事務局	〇〇委員長 以下〇〇名
件名 α β γ 建物						設計者	座席表を添付する。 座席表は事務局より送ります。
提出 資料							

番号	指摘及び検討事項(質問等も含む)	回答及び処置	備考
	<p>記述にあたっての注意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質疑文には、1.2.・・・と連番を振ってください。 ・ですます調で記述してください。 ・表現方法に関して、委員の言葉をそのまま書くのではなく、議事録として適切な表現とし、また、議事録だけを見て論点が分かるように記述してください。 ・式や図、ページNo.については、それが何についての話題なのか分かるように補足してください。 <p>文例1)〇〇はどういう意味か →(正)〇〇の性能について説明してください。</p> <p>文例2)式 2 は何の式か →(正)p.56 の〇〇〇についての式 3-7 の出典は何ですか。</p>	<p>記述に当たっての注意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回答文は文頭に「・」をうって、各質疑に回答してください。 ・「はい、わかりました」「そのとおりです」といった記述は避けてください。 <p>「はい、わかりました」 →(正)どういう処置をとったのか(記述の変更、検討の追加など)を記述する。</p> <p>「そのとおりです」 →(正)具体的にどうなのかを説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「検討します」「確認します」どの内容に関して保留する場合は、どういう検討をするのか、場合によっては検討した結果、確認した結果について記述してください。 <p>回答例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入力地震動に位相差を与えて検討し、次回部会にて報告します。 ・考慮しています。詳細は部会で報告します。 ・杭主筋を基礎上端まで定着させて、引き抜き力を伝達できるようにしています。 <p>以上</p>	
34	<p>例)</p> <p>平面形状が長さ 50mの横長の建物ですが、位相差を考慮した検討をしていますか。</p>		追加検討資料 -20
35	<p>[基礎構造]</p> <p>地中壁の設計で地震時土圧を考慮していますか</p>		追加検討資料 -21
36	<p>杭頭の引き抜き力が上部構造に伝達できるよう配筋を考慮していますか。</p>		

追加検討資料や追加資料を作成した場合は記載。指摘により本文等を修正や追記した場合は、該当ページを記載し、修正、追記を表記する。

添付資料

- ・指摘事項回答書(JCIA 様式 SHR07)
- ・追加検討一覧表(JCIA 様式 SHR19-1～2)
- ・追加資料一覧表(JCIA 様式 SHR19-1～2)
- ・正誤表(JCIA 様式 SHR20)